2015 年 11 月 6 日
株式会社セキュアソフト

注意喚起：日本国内で DDoS 攻撃によるウェブサービス被害が増加中

2015 年 10 月 22 日、KADOKAWA が運営する IT 情報サイト「ASCII.jp」が大量の通信データを送り付け、サービスを停止させる「DDoS（ディードス）攻撃」とみられる攻撃によりウェブサイトが閲覧しづらい状態となり、復旧するまでに 6 日以上かかった被害が報告されました。攻撃は国際ハッカー集団「アノニマス」によるものといわれております。

DDoS 攻撃は対象システム（ウェブサーバ等）に大量の通信データを送ることで、該当システムをサービス不可能な状態とさせるサイバー攻撃です。「アノニマス」以外にも多数のハッカー集団が、これまでにも日本国内の多数の組織や企業をターゲットとした DDoS 攻撃によりウェブサービスを停止させ、被害組織や企業に自分の力を誇示しております。今後、国外事例と同様に、攻撃の停止を条件とした脅迫と金銭を要求するなどの 2 次的被害も発生するのが秒読み段階の状況です。

さらに、従来「アノニマス」はメディアに対する攻撃はしないといわれてきましたが、先日の毎日新聞のサイトへの攻撃は、アノニマスによるものとの言われております。そのほかにも公共機関などへの攻撃が観測され、日本への活動が活発化しております。年末に向けて一層攻撃が増加する可能性がありますので、注意を喚起させていただきます。

“目には目、歯には歯”の様に、DDoS 攻撃に対しては DDoS 対策専用ソリューションを利用して攻撃を防ぐ必要があります。Sniper ONE には DDoS 対策専用ソリューション Sniper DDX から“Anti-DDoS 専用機能”をそのまま搭載されています。さらに Sniper ONE は Anti-DDoS 専用機能に加えて、1 台のアプライアンスで RateLimit、Regular Expression 機能を組み合わせる事ができます。これにより高度化した DDoS 攻撃に対して組織や企業の重要な情報をローコストに保護する事が出来ます。

SecureSoft Sniper ONE

参考情報：

セキュリティニュース：TR15-011

以上